

回答数

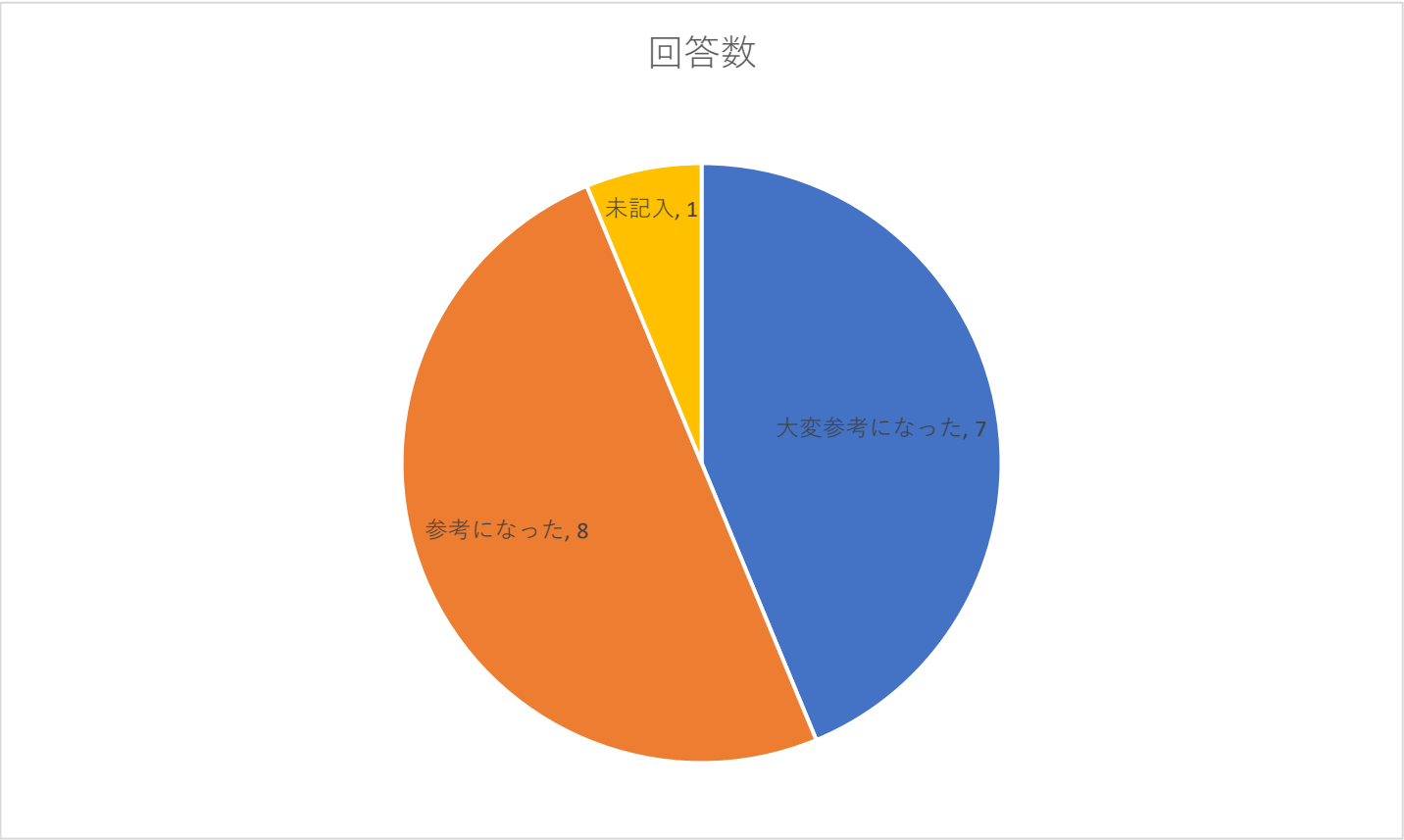
16 名

複数参加市町村は
代表で回答

1.活動報告

①温暖化防止県民会議「若者ワーキンググループ」について

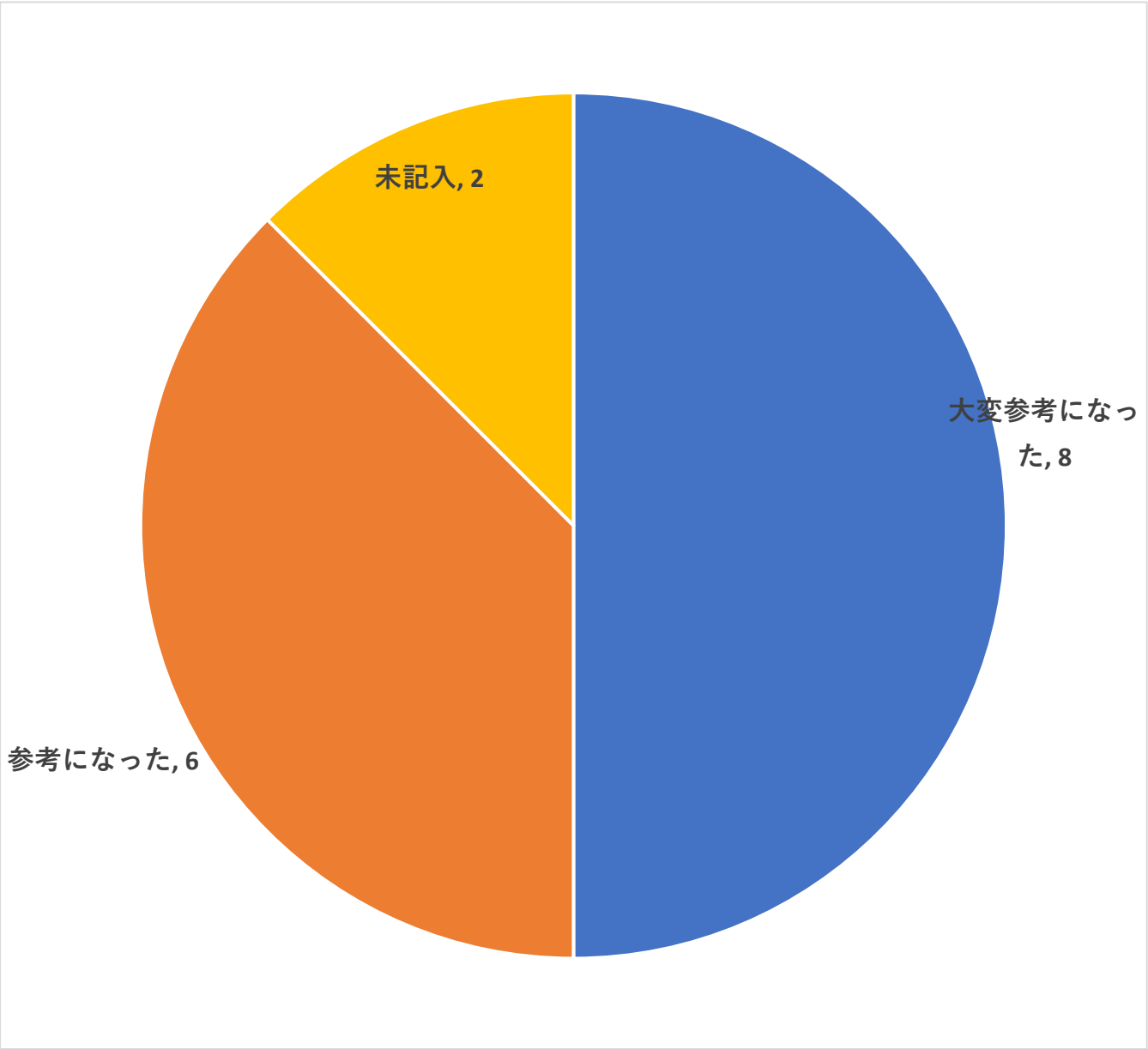
質問	回答数	割合
大変参考になった	7	44%
参考になった	8	50%
どちらでもない		0%
未記入	1	6%
合計	16	100%



・どのような形で各社に呼びかけていたのでしょうか。
・現状課題から提言をしているがとても取り組みを想像できる内容なのが素晴らしかった。そこに至るまでのディスカッション手法が興味深かった。
・聴講できず。資料は参考になりました。
・脱炭素を意識した生活が営まれる社会づくりに繋がればよいと感じた。
若者の立場からの意見は大変参考になった。就職先にも脱炭素が求められており、このような取組が進むと良いと思う。
接続の承認まで30分かかってしまい、発表を聞くことができませんでした…。事前に頂いていた資料だけの感想ですが、脱炭素と就職活動がつながるという発想は斬新で、おもしろいと思います。
当市では小中学生または大人向けのセミナー等行っているが、高校生・大学生に向けた取り組みまで行えていない。若者ワーキンググループでは年齢が近い方からの反響があるということで、これからも持続して活動してほしい。
ゼロカーボン就活の様子や結果が気になりますので、次回情報提供をお願いしたいです。
言いつばなしの提言は誰でもできるが、実証に取り組むところまで行っており大変良い取組と思う。

②「いわてカーボンフリーアクション(ICFA)」について

質問	回答数	割合
大変参考になった	8	50%
参考になった	6	38%
どちらでもない		0%
未記入	2	13%
合計	16	100%



・もっと全県学校へのアプローチを行ってほしい。

・環境問題の取り組みはそのほとんどがどう行動してよいかわからないという意見が多く、情報を発信している内容はとても意義があると感じた。

・聴講できず。資料をみて、活動はすごいこと。

若い世代の脱炭素への意識醸成につながる良い取組だと感じた。

脱炭素社会への行動啓発については行政も取組を行っているが、学生間で取り組むことで若い世代の関心を得ることができ良い取り組みだと思った。

若い人なりのアイディアで、何より若者自身が動くことで、中高生など更に若い世代に伝わるのだと感心しました。

若者ワーキンググループと同様、これからも持続して活動してほしい。

出前授業などにより参加した人の行動変容はもとより、ICFAの学生の行動変容にも繋がっておりすばらしいと思いました。
チラシ等の作成にも取り組んでもらいたい。

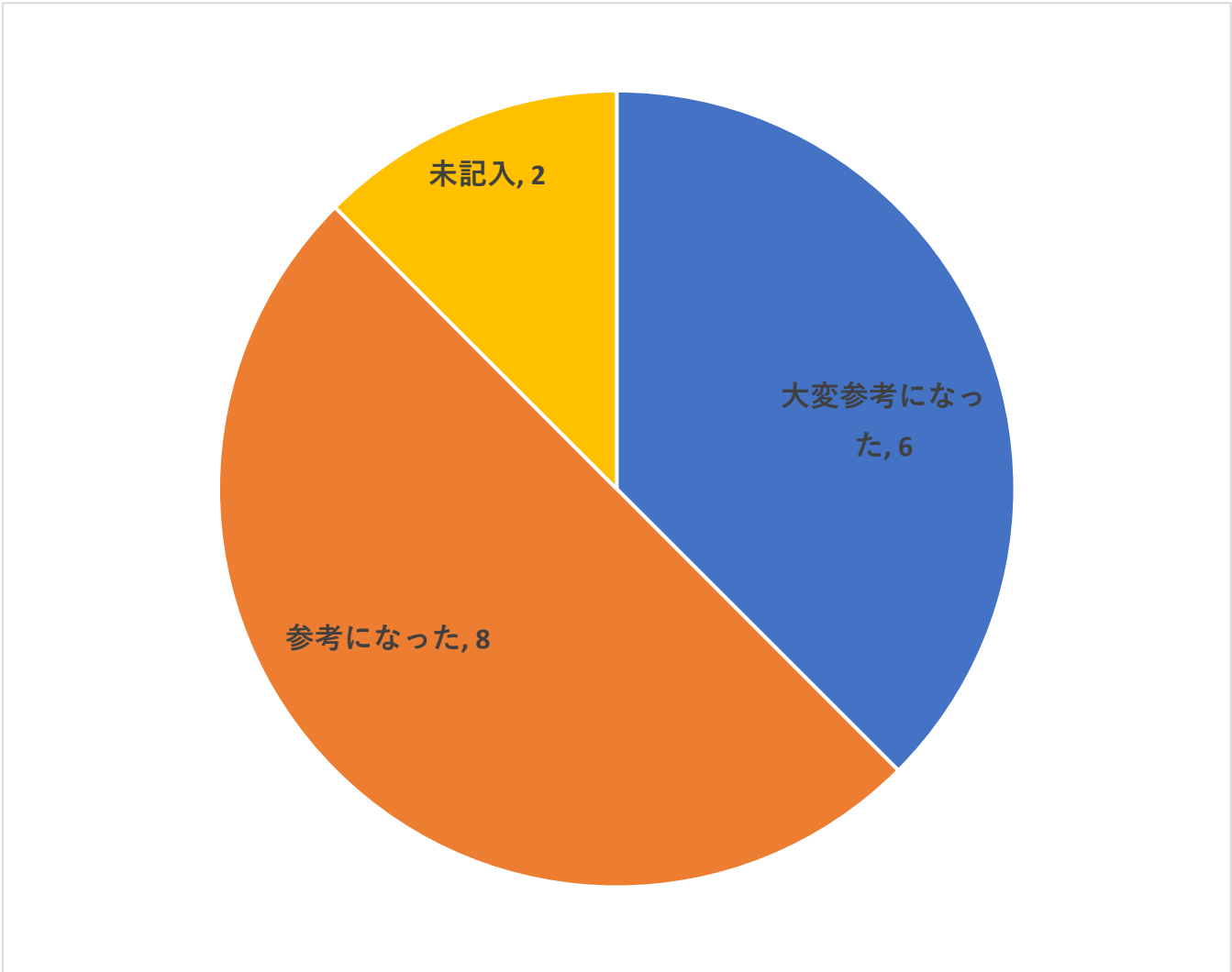
学生主体の取組となっており、そこが成功のカギと思う。特に個人的な情報管理が可能となった時代で、若者は組織の中でのコミュニケーションを苦手としており、このような体験は社会人になっても生きると考えている。

県立高校に出前授業に行った際のアンケートから、実施前と実施後で脱炭素に対する意識変化があったことがよく分かった。離れた年代から教えるよりも、同年代から教えてもらうとより刺激があり、意識啓発のきっかけを誰が提供するのかも重要な要素と聞いて、非常に勉強になった。今後の講座開催の参考としたい。

2. 脱炭素先行地域の取組紹介

①【釜石市】

質問	回答数	割合
大変参考になった	6	38%
参考になった	8	50%
どちらでもない		0%
未記入	2	13%
合計	16	100%



・事業を詳しく知りたかったが資料がないのが残念だ。

パートナー企業とどうやって手を組むことになったのか、知りたい

釜石版サステナブルツーリズムにおいて、鉄鋼スラグを活用した藻場再生やブルーカーボンのクレジット創造・販売について今後の状況も知りたいと感じた

脱炭素の取組について、住民、事業者が一体となり行われており、大変参考になった。デコ活支援センターについては、ぜひ見学してみたい。

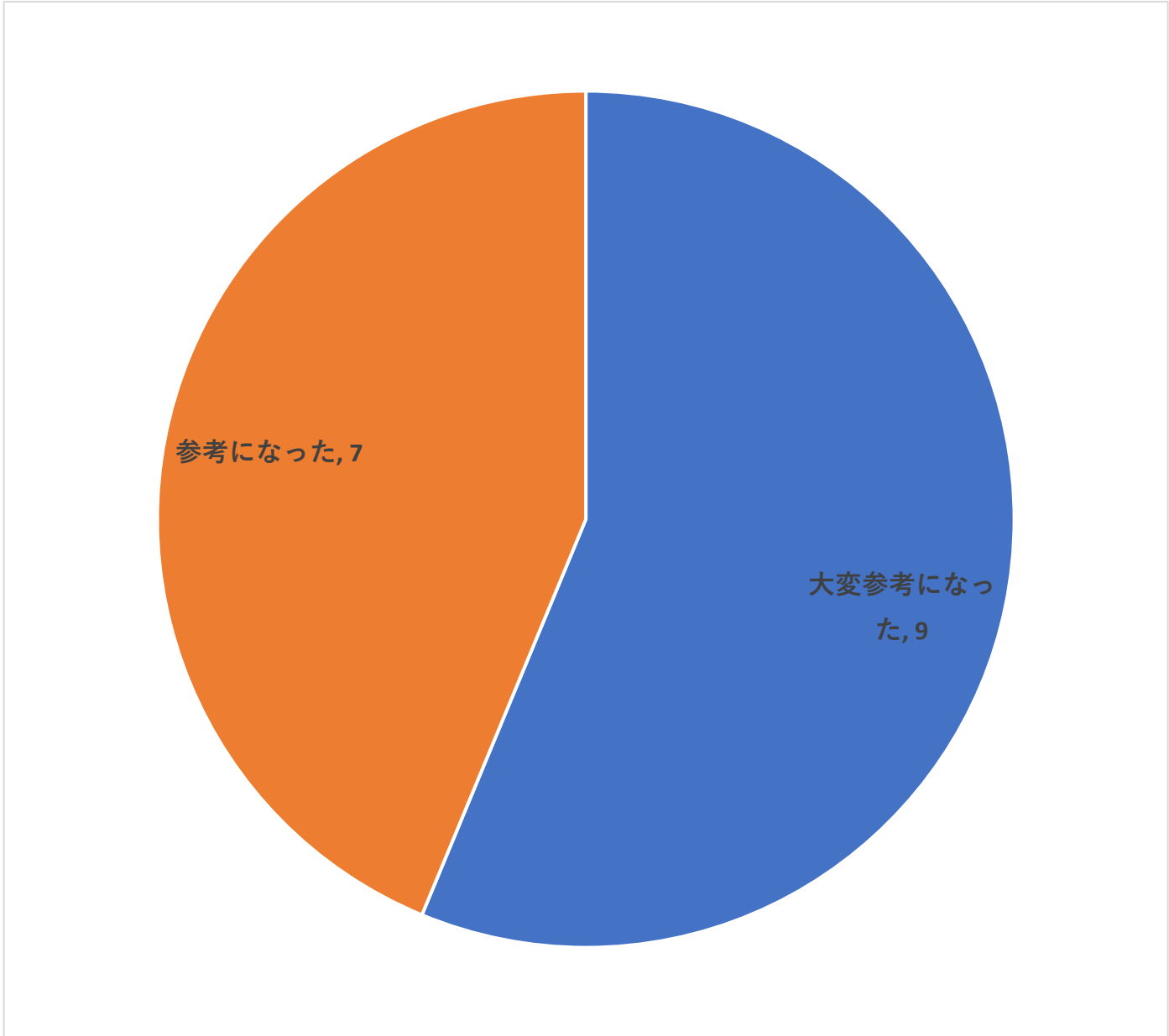
当市では重点対策の選定を受けて補助事業を行っているので、選考地域をはじめ県内の動向を引き続き参考にしたい。

取組の経緯等も知ることができてよかった。

同じ自治体として、今後の市の施策を検討するうえで大変参考となった。

②【陸前高田市】脱炭素先行地域の取組み紹介

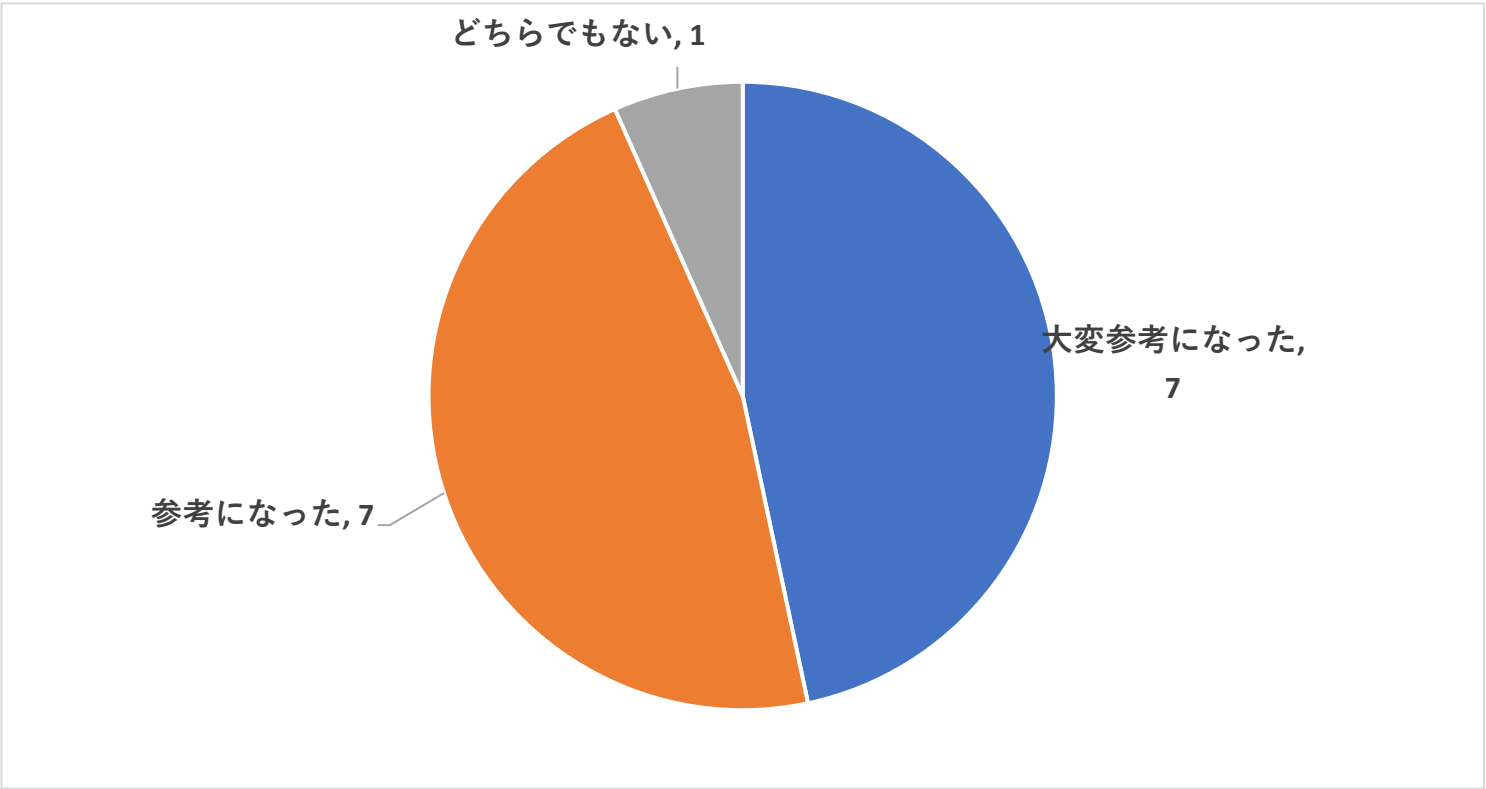
質問	回答数	割合
大変参考になった	9	56%
参考になった	7	44%
どちらでもない(発表者)		0%
未記入		0%
合計	16	100%



電気保安人材育成やソーラーシェアリングは面白い取り組みだと思います。 これだけのプロジェクトを進めるのに、キーマンとなった人材やネットワークづくりについて情報を共有できれば良かったです。
・具体的な取り組み、計画との紐づけが理解できて勉強になった。
パートナー企業とどうやって手を組むことになったのか、知りたい
森林、藻場保全・再生の今後の状況について知りたいと感じた。
広田湾のブルーカーボンのクレジットについて、当市でもブルーカーボンの取組を予定しており情報共有できればと思った。津波被災跡地の利用についても、今後情報収集していきたい。
釜石市に記載と同様(当市では重点対策の選定を受けて補助事業を行っているので、選考地域をはじめ県内の動向を引き続き参考にしたい。)
取組の経緯等も知ることができてよかった。
同じ自治体として、今後の市の施策を検討するうえで大変参考となった。

3. 大槌町地球温暖化対策地域協議会の活動報告

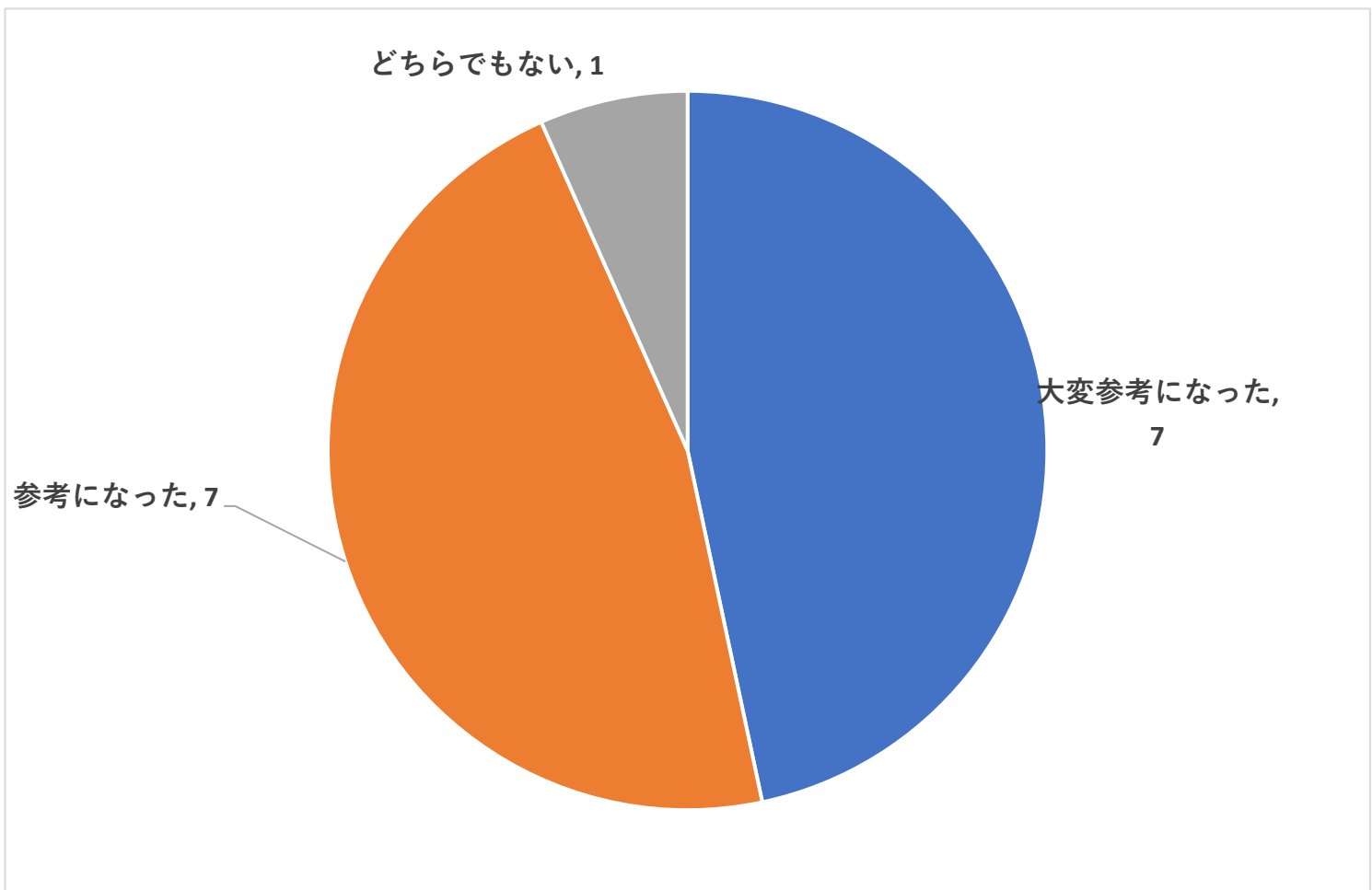
質問	回答数	割合
大変参考になった	7	44%
参考になった	7	44%
どちらでもない	1	6%
未記入	1	6%
合計	16	100%



- ・地域協議会の復活、これからの活動の広がりを期待しています。復活に当たって心機一転、協議会の新しい愛称(若者が親しみやすいもの)をつけたりすれば、会のイメージも刷新され、若者も参加しやすくなるかと思います。
- ・大槌町温暖化対策→何から手を付けてからの始まりの件はいつも聞くことですがその問題から一つ一つ手を付けてきた。
- ・地元なので感想はパスで。昨年の取り組みはとても良かったと思う。特に低迷している水産の水揚げと海水温の兼ね合いは住民も興味が高かった。次回もかわりの深い課題をテーマにして展開していきたい。
- 今後の、未来の、活動イメージを描けているか。私が言うのはおこがましいが、疑問。
- 学習会や講師を招いての講演会など、当市協議会の今後の活動の参考とさせていただきます。
- 県環境学習交流センターによる出張学習会は、当市でも実施を検討したいと思った。
- 市民への地球温暖化防止(脱炭素)の意識を今後どう周知していくのか、活動を参考にしたい。
- 組織化は、やはりエネルギーがいるものとあらためて感じさせられた。キーパーソンとなる人材の確保はどこでも急務であり、地方ほど危機感を持って取り組む必要がある。

4. 情報・意見交換会

質問	回答数	割合
大変良かった	5	31%
良かった	8	50%
普通	1	6%
未記入	1	6%
都合により途中退席	1	6%
合計	16	100%



意見交換によって結論が出たり方向性が定まったりするものではありませんが、協議会や自治体ごとに多様な取り組みを推進するためには、意見交換会の存在や事前アンケートの存在はとても有意義なものだと思います。同じような悩みを抱えている協議会・自治体も多いため、今回の意見交換からさらに一歩進んで、会の外でも交流を活性化させるためには、協議会や自治体担当者向けの講習会やセミナー等で顔を合わせてグループワークで意気投合するような機会があっても良いと思います。

・好事例他地域の取り組みを知れてとても良かった。

各団体の取組や意見を聞くことができ、貴重な経験となりました。今後の業務の参考とさせていただきます。

事前アンケートを基に、様々な取組を聞くことができ良かった。

推進員の方の話を聞くことができたのが有意義だった。

推進員の話を聞くことができ、今後の地球温暖化対策の取組の参考とすることができた。

毎年開催しているのであれば、テーマを絞って事前に設定し、あらかじめ準備した状態で意見交換をすれば、よりよい内容になるのではないかと

・どこの団体も若年層への意識啓発が課題となっている。どのようにして興味を持たせるかについては、座学ではなく目に見える形で、肌で感じてもらうことが重要と思った。
・大槌町地球温暖化対策地域協議会が開催した出張環境学習会では110人も参加者があったとお聞きし、やはり体験型での開催が効果的なのだなと思った。
・滝沢市では、企業のCO₂見える化を実施しているとお聞きし、脱炭素のインセンティブの一つとして重要な取組と感じた。現在作成中の環境学習チャレンジブックにCO₂の見える化を取り入れるなどして当市でも取り組んでいきたい。

5.感想

1. 市民の脱炭素意識の底上げを図るためには、“興味関心のない一般市民（仮に「ステージA」とする）”への働きかけのメニュー・施策が必要です。こういった人に直接的に脱炭素を訴えても響かないことも多いので、ナッジ的なアプローチが必要だと思われます。
2. アンケートの意見にもあるように、現状、ある程度の規模の脱炭素効果を得ようとするためには、まとまった初期投資などの経済負担が必要になります。“行動したいけど、どうしたらいいかわからない個人や企業（仮に「ステージB」とする）”向けに、初期投資が少なく実行できるメニューを揃えるのも必要かと思います。それはPPAとかだけでなく、「あなたのスキルをここに使って協力してくれたら、廻りまわって脱炭素に繋がります」といったようなSDGs視点でのメニューであれば良いと思います。ステージA、Bのそれぞれに対して、適した施策を検討・推進してはいかがでしょうか。
3. 意見交換会で子どもや若者を巻き込む方法についての議論も出ましたが、推進員の立場から見ると、“小学生”や“若者”はひとくくりに捉えられるのではなく、小学生も低学年・中学年・高学年でアプローチの仕方を変える必要がありますし、高校生と大学生でも取れるアプローチが異なります。易しく伝えようが少し難しきろうが、“考えるチカラを持った”子どもや若者が増えれば、きっかけを与えるだけで自分で調べていろいろ対策を考えてくれると思いますので、脱炭素を教材とした課題解決型のESDプログラムを提供するなどしていくことが大切だと考えます。そのためにも、教育委員会を含む自治体を動かす施策を優先的に検討いただきたいです。
4. 今回の参加者の半数は、昨年も参加している方々です。複数年参加している方には、「取り組みが前年からどう進んだか」や「協議会をとりまく状況がどう変化したか」について話を聞きたかったです。
5. 脱炭素先行地域の紹介は、15分の発表では活動紹介に終わってしまい、上澄みだけを理解するがやっとなで、「いろいろやってて凄いですね…、ウチの自治体では難しい…」といったレベルの感想しか出ないのが正直なところですよ。ですので、下記のように項目立てて、もっと自治体間で共有できる情報を提供いただきたいです。 ・先行地域に応募したきっかけ（“危機意識が芽生えたから”とかではなく、“誰が声を挙げて、どのように市長や議会を説得したか”など） ・立ち上げに苦労した点（誰が音頭を取って（リーダー）、どんな人材を活用して（コーディネーター、プロジェクトマネージャー）、どのように周りを巻き込んでいったか（ネットワーク構築の方法、反対意見の説得の方法）、など） ・資金確保はどうか（市で何割負担したか、それは市財政の何%に相当するか、など）
6. 協議会の交流会に、脱炭素まちづくりアドバイザーや、総務省のグリーン専門人材、脱炭素アドバイザー（銀行）などの講演を加えて欲しいです。できれば単なる制度説明ではなく、全国の事例も交えて話が聴けたら有難いです
・非常に勉強になりました。
・若者や学校に対してSDGsから入っていくことが入りやすいと理解できた。
・いろいろご活躍の方々にお目にかかれ誰がどこで意欲的に取り組んでゆかれると思うと自分ももっと学ぶを深め・主婦の立場皮家庭内でまだまだすべきSDGsがたくさんあるので（今の、今後の深刻な現状を）刺激となる楽しいアイデアをどんどん発表し主張してゆきたい。今の今後の深刻なげんじょうを
・毎回思うことは、範囲が多様・広すぎて論点・焦点がぼやけてしまい、研修会の参加満足度は低い。 ・地域協議会の組織としては限界点ではないか。特に市町村事務局の組織は継続性が見込まれない。住民主体の組織であればこそ、唯一継続性があると見える。
今回の意見交換会を経て、特に若い世代の脱炭素社会に向けた意識醸成が肝になっていくのだろうと感じました。一人一人が学生のうちから自然と脱炭素の取組を意識した暮らしが出来るような社会になるよう、協議会や市町村による環境学習への取組を推進したいです。
釜石市の取組について、事前資料がなかったことから資料を提供してほしい。
開始時間についてご一考願います。
※発言を求められた際にミュートを解除したのですが、音声が届かず、大変失礼いたしました。 行き詰まりを感じている団体、意外に良い反応を感じている団体など、様々なのだと感じました。本市においても、実際に脱炭素や温暖化対策について活動している方に意見を聞くと、やはりなかなか身近な問題として、自分事として認識してもらえないと言われます。ここ数年の夏の暑さや世界的な異常気象、水害などが地球温暖化に起因している可能性が非常に高いということを説明すると、老若男女問わず、その場ではショックを受けるのですが、では、自分がどんな行動を取るのか、どんな取り組みが温暖化防止・気候変動対策につながるのか、というところで躓いてしまう印象です。 自分が家庭でちょっと省エネやらごみ分別やらをやったところで、ウクライナやパレスチナでは戦争によってCO2が排出され、大規模な山火事が起これば膨大なCO2が排出されている…と考えれば、世界規模の気候変動を自分ひとりの努力でどうこうできるものなのかと無力感にさいなまれてしまいます。結果、「あの話は大切かもしれないけれど、そのうち…」「フロンがオゾン層を破壊して大変、と言われていても今は何も話題にならないし、同じようにCO2もそのうち誰かが何とかしてくれるだろう」と思ってしまいがちです。 継続的で効果的な取組をより多くの方に続けていただくためには、何かもっと意識の転換につながるようなものが必要なのかもしれません。
・会議の開始時間を13:30もしくは14:00希望します。（ ※web参加であったが12～13時の昼時間中に会場準備を行ったため） ・会場マイクの声が聞き取りづらい場面があった（ ※音が小さいのではなく、何と発音しているのか言葉として聞き取れなかった）
事務局である推進センターの皆さんには、当市環境学習の講師派遣でいつもお世話になっております。引き続きお願いしたいと考えております。 また、webを活用した開催は時間の有効活用という観点では非常に便利なものですが、一方では人と人とのつながりや、人の息遣いを感じての関係性の構築を阻害されていると感じます。Webは遠隔地の方やどうしても会場に行けない方に限定し、現地での情報交換する場を工夫しながら提案していただければと思います。 なお、前ページの評価については、内容の優劣という意味ではなく、自治体として参考になったのはやはり同業の方のものとなりますので、その点は誤解ないようお願いします。